次世代にいのちをつなぐタネ

伊東蔵衛さん(江戸屋弘東園代表)

タネは誰のもの

監督・撮影・編集：原村政樹『お百姓さんになりたい』『武蔵野』『無音の叫び声』

プロデューサー：山田正彦　語り：江原啓之 音楽：鈴木光男　2020年/日本/カラー/65分　kiroku-bito.com/tanedare

種苗法改定で登録品種は
自家増殖(採種)禁止の危機に

自家採種のタネ(日本豊受自然農)

由井寅子さん(日本豊受自然農株式会社代表)

瀬川守さん(当麻グリーンライフ代表)

矢吹淳さん(種子島サトウキビ農家)

広島県農業ジーンバンク

伊藤和久さん(自然耕房ホタルファーム)

2018年4月、種子法廃止
そして2020年10月、種苗法改定案の国会審議が再び始まる
急速なグローバル化の中であらためて問われるタネの権利とは

“グローバル種子企業が「タネを制するものは世界を制する」と
いうことで独占し、公共のタネでなくなってしまう懸念がある”

鈴木宣弘教授
（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

生産者と育種権者
それぞれの思い——

“種苗法が改定されれば、
私たち育種家は助かります”

林慎悟さん
（林ぶどう研究所代表）

2020年6月に国会成立が見送られ、継続審議となった種苗法改定の動きに対して賛否が渦巻く中、自家採種・自家増殖している農家と種苗育成農家の双方の声を伝えるため、北海道から沖縄まで様々な農業の現場を取材。政府が拙速に改定を成立させようとしている中、種苗法改定（案）が日本の農業を深刻な危機に陥れる可能性を、専門家の分析も含め農業の現場から探った——

2005年、山形のさくらんぼ「紅秀峰」の商標流出を裁判で解決した水上進弁護士

伊藤英信さん（アグリシステム株式会社代表取締役会長）

監督・撮影・編集：原村 政樹（はらむら・まさき）

1957年、千葉県生まれ。大学卒業後、フリーの助監督を経て1988年に桜映画社に入社。同年、アジアの熱帯雨林破壊問題をテーマにした短編映画「開発と環境」で監督デビュー。以後、記録映画やテレビドキュメンタリーを多数手掛ける。主な作品に『海女のリャンさん』（2004年）、『いのち耕す人々』（2006年）、『天に栄える村』（2012年）など。2015年、『無音の叫び声』制作を機に、フリーの監督として独立、『武蔵野』（2017）、『お百姓さんになりたい』（2019）を制作。

監督・撮影・編集：原村政樹　プロデューサー：山田正彦
語り：江原啓之　音楽：鈴木光男　映像技術：宮﨑 諒　整音：丸山 晃
収録：（株）モイ　企画：一般社団法人心土不二　取材協力：印鑰智哉
協力：日本の種子（たね）を守る会/映画「武蔵野」製作委員会
予告編制作：大友頌平（SEA）　宣伝イラスト：佐藤ゆうこ&レン
配給：きろくびと　2020年/日本/カラー/65分

八木岡努さん（JA茨城県中央会会長）

山本伸司さん（種子島サトウキビ農家）

古谷慶一さん（有機農家、栃木県大田原市）

タネは誰のもの

kiroku-bito.com/tanedare

種苗法改定案の国会審議のため

2020.11月13日(金)よりUPLINK渋谷にて緊急公開！

その他全国順次公開

上映期間中、監督などによるトークイベントを予定！

※詳細は公式HPまたは、劇場HPをご確認ください。

全国共通特別鑑賞券1,000円(税込)発売中！

渋谷・東急本店右側通200m先
UPLINK 渋谷
03-6825-5503　shibuya.uplink.co.jp

12/14(月)～
横浜シネマリン
045-341-3180
cinemarine.co.jp